この一年を振り返る　学年主任より

「キャリア・アグプタビリティを持った生徒」

一年学年主任　末松真樹

入学式から早一年が経過しようとしています。「可能性を感じる」、これは四月末に私が一年生の生徒達に抱いた印象です。この印象は三月になった今、より鮮明になっています。実際に、放課後学習会に自ら参加し学習に励む生徒達、キャリア教育講演会のパネルディスカッションに向けたファシリテーターとの事前打ち合わせや講演会後の礼状作成を自ら申し出た代表の生徒達、自分の掃除区域が終わった後に走りながら隣の掃除区域を手伝いにやって来る生徒達、地域と連携したイベント「からつ応援市場」で出店やボランティアを行う生徒など、様々な所で可能性を持った生徒の姿が見られるようになりました。

さて、この変化の激しい時代、柔軟に変化に対応しながら自らのキャリアを自在に創っていくためには「キャリア・アダプタビリティ」、つまり、自分のキャリアに対し「関心」を持ち、自分のキャリアを「統制」し、自己の可能性を探求する「好奇心」を持ち、志を追求する「自信」を持つことが重要だと言われています。キャリア・アダプタビリティを持ち、「ありたい自分」の実現に向けて自走していくことのできる生徒の育成を目指し、我々一年学年団は、学年目標を「ありたい自分を見つけるための基礎作り」と設定し、学年運営に励んできました。

朝のEG（イングリッシュ・グラマー）テスト、国数英の放課後学習会、月曜七限目のスタディサプリ学習、キャリアパスポートを活用した目標設定・振り返り活動などの取り組みに加え、一学年は「キャリアコンサルティングを意識したキャリア教育」という新しい取り組みにチャレンジしてきました。具体的には、不安や悩みを抱える生徒を対象とした担任や校内キャリアコンサルタントによるキャリア面談、外部キャリアコンサルタントと連携したキャリアコンサルタントと連携したキャリア教育・学年保護者会での講演などを行ってきました。

これらの成果とは言い切れませんが、今までの本校生徒にはあまり見られなかった創造的・自走的な活動をする生徒が出てきました。例えば、他校の生徒や地域の大人達の協力を仰ぎながら、高校生の力で企画したイベントを三月に開催しようとしている生徒達がいます。「先生、私達が行うイベントのチラシを皆に配布していただけませんか？」と、大人と対等に交渉する生徒達の姿は非常に頼もしかったです。

このように可能性の蕾が膨らみつつある一年生の生徒達が二年後どのような花を咲かせるのかと考えると、とてもワクワクします。生徒一人ひとりが「ありたい自分」を実現していけるよう、一年学年団はこれからも支援をしていきます。

保護者の皆様、一年間、我々の教育活動を温かく見守って頂き誠にありがとうございました。

保護者の皆様へ

三年学年主任　池田憲一

三年生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。この三年間様々なことがありました。入学後、元号が平成から令和となり新しい気持ちで高校生活がスタートできたのですが、一年生の三学期になり新型コロナウイルス感染症の世界的流行で世の中は激変してしまいました。学校生活でも突然の一斉休校、リモート授業、不要不急の外出自粛やマスク着用など、何もかもが初めてのことばかりでした。卒業を迎える今日まで、様々な行事が中止や縮小され、高校最大の行事である修学旅行も実施できませんでした。日々の生活でも、マスク越しの会話、お弁当の時間もみんな同じ方向を向いて黙食など、何かと制限ばかりでした。入学以来、「あたり前のことを当たり前にできるように」、「やるべきことをやるべき時に」という学年目標を掲げ、それぞれの場面に応じて学習や生活の課題を設定して指導してきました。あたり前のことがあたり前にできなくなった世の中で、矛盾を感じていた生徒も多くいたと思いますが、生徒たちはそれらを真っ直ぐに受け止め、さまざまな面で素直に行動し、三年間で大きく成長することができたと思います。

このコロナ禍の三年間を振り返るとき、「かわいそうな学年」と言う人がいるかもしれません。しかし私にとって、生徒みんなが困難に向かって頑張る姿は元気の源であり、希望そのものでした。いろいろな意味で「記憶に残る学年」です。絶対に忘れることはないでしょう。

三年生の学年目標の「進路目標の実現」は、生徒たちが素直な気持ちで頑張ってきた結果。必ずしも百点満点ではないですが、生徒たちの目標に近づけたのではないかと思っています。これも、学年運営を温かく見守って頂いた保護者の皆様のご理解あってこそであると思います。この場を借りて深く感謝いたします。まだ目標達成に向けて奮闘している生徒たちがいます。私たちは最後の最後まで全力で実現に向けて支えていきます。

生徒たちの進路は様々です。これからの活躍が楽しみでなりません。生徒たちには機会があれば話をしたいと思いますが、卒業後の生徒に望むことが二つあります。一つ目は、自分のことは自分でできるように自立すること。二つ目は、困難に遭遇しても諦めないことです。これまで、ほとんどの生徒は、親や学校に依存した生活を送っていきました。しかし、卒業後は社会人・学生として自立した生活が待っています。四月から成人年齢が十八歳に引き下げられます。すぐには難しいかもしれませんが、親としても子どもへの対応の変化が求められているのではないでしょうか。さらに、これから生徒たちには多くの困難（壁）が待っています。「壁」は越える力（可能性）のある人にしか現れません。「壁」を恐れずに、それを越える力を付けて乗り越えるような生き方を身につけてもらいたいと期待しています。

これからの社会を支えるのは子どもたちです。地域社会の未来を担う志のある人材を育成するという教育目標のもと三年間学んだ唐津西高校生は、将来必ず地域社会に貢献する人に育ってくれるものと信じています。

最後に保護者の皆様には、三年間学年運営に対してご理解とご協力ありがとうございました。心より感謝を申し上げます。

『明確な動機』

二年学年主任　安部泰生

日頃から二学年の教育活動に対しまして、温かいご理解とご協力を頂いておりますことに、まずもって感謝申し上げます。

昨年四月、一年次の『新しい時代を生き抜く〝土台づくり〟』を基礎とし、二年次は、学年目標を『新しい時代への明確な〝動機づけ〟』と設定し、学校生活をスタートしました。新しい時代へ向けて自分自身が何をしていくのかという明確な「動機づけ」ができるよう支援するために㈠生活習慣の向上㈡学力の伸長㈢進路意識の飛躍を三つの柱として教育活動を継続しております。

㈠生活習慣の向上

欠席遅刻…1年次と比較し、欠席や遅刻の増加傾向が年度途中見られました（コロナ関係以外）。三学期に入り改善傾向にあります。今後もご協力お願いします。

自宅学習：二学期平均五七分（一年次：一時間二分）。高校生活も折り返し地点を過ぎ、自主的に学習する習慣（二時間以上）を身についているかはもちろん、学習方法の内容まで確認していきたいです。

㈡学力の伸長

県下一斉模試一五〇〇番以内、一年四月十二名・八月十名・一月十九名・二年八月三十一名・一月三十名と学年全体では確実に学力が伸びている傾向にあります。また、英語検定などの資格取得や校外活動に対して意欲的で熱心な生徒が増加している傾向も伺えますので頼もしく見守っています。また、学習習慣が身についていないことで授業についていけない、課題の提出が遅れるなどを抱えている生徒もいますので、授業への取り組み方・毎日の学習習慣などをもう一度見直す一方、学年団としてもサポートや声掛けを精一杯続していきたいと思います。

『学力』は生徒自身の理想へ近づく環境をつくり出すための第一歩であり、一つでも上のステージに上がることができれば、希望する進路へ進める可能性も高まりますし、選択肢も増えていきます。ステージが上がることで、新しいことに出会い、人生を大きく変えるチャンスをつかめるかもしれません。だからこそ、生徒にはまず勉強に励んでもらい、来年勝負できるだけの力を積み重ねてほしいと考えています。

㈢進路意識の飛躍

受験制度は多岐に渡っており、本校では総合型選抜・学校推薦型選抜に挑戦するする生徒が年々増加している傾向にあります。そのため、総合的な探究の時間・LHRを利用して、進路研究・学科研究・進学研究・志望理由書初級編・志望理由書の深掘り編・小論文対策等を取り組んでおります。その中で小論文のウェートが大きくなるのですが、授業以外で取り組んでいく必要があり、多くの生徒が苦手意識を持っています。そこで冬季休業中の特課では、予備校講師を招いて『小論文講座』を三日間行いました。『子ども達の可能性の幅をとにかく広げていきたい！』と進路実現サポートを継続していきます。

㈣その他

新型コロナウイルス感染拡大で多くの行事が規模縮小や中止を余儀なくされる中、「修学旅行」を実施できたことに安堵しています。学校を離れた2年生のとてもとても充実して楽しそうな姿を見ることができてとても嬉しい気持ちになりました。実施時期の前倒し・目的地変更となり、様々な面で準備不足の面がありましたが、皆様方のご理解とご協力で実施できたことに感謝しております。ありがとうございました。ここで生徒たちの振り返りを少し紹介させていただきます。

●やっぱりコロナが流行っていて少し落ち着いたときにこういった行事をできることは大変ありがたいと思いました。アトラクションや観光もとても楽しかったけれど、やはりホテルの部屋が一番楽しかったです。いろんな話をしたりして意外と知らなかった一面や、面白いところなどを知れてとてもよかったと感じました。コロナ禍での修学旅行をしてくださった先生方、旅行会社の皆さんにはとても感謝です。

●USJに初めて行き、初めての遊園地で初めて尽くしでした。とても楽しく最高の思い出になりました。また、人と未来防災センターでは、阪神淡路大震災について学び、人々の心の温かさを感じました。今回の修学旅行では、初めて知ったり、体験することができ良かったです。

●一番楽しかったのはUSJの三日目です。心のまま思い切りはしゃぎまくって笑顔が絶えなかったのが印象に残っています。みんなで楽しめる行事が体育祭しかなかった中、こうやって急ピッチで計画し、連れて行ってくれた先生方に感謝できた期間だったし、みんなとただ一緒にいるだけで楽しいような充実した四日間でした。

●いつもとは違う一日一日を友人と過ごしたのは新鮮でした。友人の新たな一面も知ることができたのでよかったです。また、今までで行ったことのない地方に足を運び、現地だからこそ分かるその地域特有の文化を知ることができました。

次年度は、最終学年となります。生徒たちの「自己実現・進路実現」に向けて、サポートしていきたいと思います。今後も保護者の皆様には生徒の支援とご協力をお願いいたします。